

## 入選

### やさしさは世界共通

福井県 春山小学校  
五年 前島 りりあ

私はこの夏まで3年間、ドイツでくらしていました。海外でくらすことには楽しみもありましたが、大きな不安も抱えてのドイツぐらしの始まりでした。最初の頃は、外を歩くときにはまわりが敵ばかりに見え、かばんを胸に抱えて過ごしていました。特に、主要な移動手段の一つだった地下鉄に乗るときは父も母もとてもけいけいしていました。

ドイツに住み始めて半年ほど経ったころ、家族で夕飯を食べに出かけ、帰りに地下鉄に乗りました。そのとき、母がバッグを地下鉄の中に置いたまま降りてしまいました。すぐに気づきましたが、すでに地下鉄は次の駅に向かって走り去っていました。

父も母も真っ青になり、私もその雰囲気伝わってきて泣きそうでした。急いで調べたところ、問い合わせ窓口は早い時間に閉まっていることがわかり、父も母も途方にくれてしまいました。海外で地下鉄にバッグを置き忘れることは、盗まれて当然の事態だとわかっていました。しかし偶然にも、降りた駅が終着駅の2つ手前の駅だったので、すぐに折り返して、戻ってきた地下鉄に飛び乗ることができました。

私たちが座っていたはずの席には、何も残っておらず、すみずみまで探しましたが、バッグはありませんでした。どうすることもできず、私たちはひとことも発さないまま、終着駅まで乗り続けました。終着駅で降りたものの、すでにあたりは暗く、ただただ一筋の希望を信じて、運転士さんのところへ走って行きました。

すると、おどろいたことに、運転席から降りてきた運転士さんの手には、母のバッグがあったのです。それに気づいたしゅんかん、母は泣き崩れてしまいました。私もその姿を見て、思わず涙があふれてきました。運転士さんはその様子から、母がかばんの持ち主だと気づいて、笑って話しかけてくれました。

一通り中身の確認があり、持ち主が本当に母だとわかると、運転士さんは母にウインクをして、

「ドイツ人にもいい人はいるんだよ。」

と言って、バッグを渡してくれました。私たちが旅行者だと思われたのかもしれませんが、絶対にバッグは見つからないと、絶望していた気持ちを見抜いていたようでした。

海外でくらすには、きんちょう感やけいけい心が必要ですが、日本もそうであるように、いい人も悪い人もどの国にもいるのだと気づかされた経験です。

その日から、ドイツでのくらしに対する不安はほとんどなくなり、できる限りの対策をしたら、あとは楽しく過ごせるようになりました。

世界中どこにいても、困っている人を助けてくれる人はいます。私もたくさん助けてもらったので、これからたくさん恩返ししていきたいです。